

高洲地区社協だより

ご意見・お問合せは
こちらから ↓

第99号

令和8年10月5日発行

バックナンバー
閲覧はこちら⇒



事務局 高洲地区交流センター
Tel 635-1458
Fax 634-0278
e-mail: takasu@city.fujieda.lg.jp



高洲南小学校福祉授業 4年生

7月10日(金)4年生児童94名を対象に福祉授業を行いました。

はじめに安心すこやかセンターの村越課長から高洲地区の人口や高齢者の人口、歳を重ねるとはどんなことかななどを伝え、つづいて、高洲地区で高齢者の支援活動している「手んだい隊(生活支援)」と「足すとし隊(買物支援)」の代表が活動の内容を説明しました。



説明のあとにはたくさんの質問が出され、一つひとつの質問内容から、話を真剣に聞き、しっかりメモを取り、考えながら授業に向き合っていることが伝わってきました。

教科書だけでは学ぶことのできない生の体験や実践的な内容を通して、こどもたちに「相手の立場になって考える」大切さを伝える大変貴重な機会となり、福祉に対する理解と関心を一層深めてもらうことができました。

手んだい隊・足すとし隊へのメッセージ

- ・買い物、草取り、ゴミ出しという困りごとを助けるために、手んだい隊・足すとし隊が立ち上がっていることが分かった。
利用会員の人が増え、感謝のありがとうも増えていることが分かりました。
- ・お話を聞いて、色々なことを手伝ったりアシストしていることが分かりました。
自分もこれから他の人を手伝ったり、人に役立つことをしたいです。
- ・高齢者の家の草とりやゴミ出しをやって、地域の人のために働けるってすごいなと思いました。
私もおばあちゃんの家に行ったら何か手伝いたいなと思いました。



こども福祉体験

本年度も7月29日に高洲小・高洲南小の4・5・6年生を対象に福祉体験を開催し、体が不自由な方の暮らしについて体験学習をしました。

最初に講師の益田蓉子さんから自らの生涯について説明があり、車いすの生活状況も画像で紹介していただきました。

その後、参加児童は車いすの操作を学び、ひとりですロープや段差、曲がるときの大変さ、後ろから介助してもらった時の違いなどを実際に体験しました。

車いすを自動で収納できる福祉車両の実演も行われ、たくさんの新しい体験をしてもらうことができました。



益田 蓉子さん



住民福祉講座

8月19日、高洲地区交流センターでふれあいサロンの代表、スタッフを対象とした「住民福祉講座」を開催しました。

今回の講座では、サロンで活用できるレクリエーションやゲームの進め方と声掛けなど、実際にテーブルを囲んで楽しむことで、参加者同士の交流を深める工夫についても学ぶ機会になりました。

参加者のアンケート結果から、「わかりやすかった」「実践したい」など、学んだ内容をサロンで活用したいという声も多く寄せられました。

各地区のふれあいサロンでの楽しい交流につながる事が期待されます。



シニアライフサロンの代表
村松晶子様



こども食堂 さくらんぼ

みなさんのお越しをお待ちしています！

活動内容：こどもたちがおいしく食事して、楽しく遊べる場所を毎月1回提供します。

利用対象者：中学生までのこども達と保護者



次の開催は10月17日(土)・11月22日(日)

ボランティアスタッフを募集します！



“さくらんぼ”の活動に賛同し、ボランティアスタッフとして一緒に支えてくださる方を募集します。

(性別、年齢は問いません)

食材の寄付も大歓迎です！

問い合わせ、見学お待ちしております。

問合せ先 090-8336-1912(代表：飯村)

合同防災訓練

8月23日、高洲地区交流センターにて、自治会連合会高洲支部、地区社協、消防団第9分団による初めての合同防災訓練を、地震発生から屋外避難までの一連の流れを想定した「実践的訓練」として実施しました。

参加者は、地震発生時に身を守る「シェイクアウト訓練」、職員誘導による屋外避難をはじめ、地震体験車による揺れの体験、煙体験ハウスによる火災時における避難方法の確認、水消火器による初期消火を行いました。

また、AEDによる心肺蘇生も学び、参加者は訓練を通じて、災害発生時に取るべき行動を実際に体験しながら、防災知識を深めました。

災害時の対応には、平常時からのつながりと連携が重要となることから、今回の訓練は、三者がそれぞれの役割を確認するとともに、互いに顔の見える関係を築く貴重な機会となりました。



三世代モルック大会

8月最後の土曜日、大新島町内会・白寿会(老人会)主催の「三世代モルック大会」が開催されました。

今年が2回目となる大会には、こどもたちの参加も増え、世代を超えて笑顔と歓喜が広がりました。「遊びながら世代をつなぐ」モルックが地域の新しい交流の場になっています。

